

## 第5回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和2年6月19日（金曜）		午前11時20分 開会	
	休憩 12:10-12:11			
			午後 0時12分 閉会	
	休憩時間： 0時間01分		会議時間： 0時間51分	
会議場所	役場3階 本会議場			
出席委員 氏 名	委員長	正村紀美子	委員	中村 和宏
	副委員長	鈴木 健充	委員	柴田 正博
	委員	黒田 栄継	委員	西尾 一則
	委員	堀切 忠		議長 早苗 豊
説明員	農林課長	佐々木快治	農業委員会事務局長	佐藤 三舟
	農林課長補佐	佐々木博史	農業委員会事務局次長	土田 雅敏
	農産係長	藤村 学		
	畜産係長	池田 哲		
	土地改良係長	次田 裕二		
参考人				
欠席委員 氏 名				
事務局職員	事務局長	仲野 裕司	係長	佐藤 史彦
『会議に付した事件と会議結果など』				
1 開 会				
委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。				
2 議 件				
(1) 調査事項				
ア 芽室町農業振興計画について				
委員長：担当課から説明願います。				
農林課長：芽室町農業の課題解決に向け、より具体的な取組を進めるため策定するもの。昨年度から部会単位で議論を進め今年度完成予定。本日の意見も今後の議論に加えながら計画策定につなげる。詳細は担当から説明する。				
農林課長補佐：資料1-1、計画策定の目的は記載のとおり。計画期間は令和3年度から10年度の8年間。中間年である令和6年度を目処に計画内容を精査し、必要があれば見直しを検討する。本計画の位置づけは、総合計画で示した本町が農業分野で目指すべき基本方針及び政策を実現するための個別具体的な目標と取り組みを示すもの。2ページ図1のとおり各種関連計画との調整、整合を図るものとする。				
資料1-2、本計画の策定体制として、芽室町農業振興計画策定検討会議を設置。この中に、農業に対する広範な知見を有する芽室町農業再生協議会をベースに6名				

で構成する「委員会」を置き、その下には専門的な知識や多様な視点により議論を深めるため、町内農業者団体からの推薦による農業者、町内団体や関係機関からの推薦による学識経験者等、公募による町民等40名が個別専門的集団に分かれて検討する5つの「部会」を設け幅広い議論を行っている。

これまでの検討経過については資料1-3に記載のとおり。5月の第2回委員会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催で行い、委員からは10件の意見があった。これらの意見については、本日の意見と合わせて検討し、計画素案に反映させる。

資料1-4は現段階での本計画の記載項目案を目次形式で示したもの。今後の検討により変更となる場合がある。

資料1-5、計画策定に向けた検討内容について、7ページ、8ページは各部会で検討いただいた計画素案「本町農業の現状、将来像、課題に係る施策の方向と取組内容」のポイントを抽出したもの。内容は記載のとおり。9ページから32ページは、各部会で検討した現時点での計画素案。部会間の文体統一、より踏み込んだ具体的な表記とすべき点や記載項目の統合などの指摘もあり、本日いただく意見とともに素案への反映作業を行っていく。

資料1-6は全体スケジュールを記載。令和2年度末までの策定を目標としている。新型コロナウイルス感染拡大防止対応での事務作業や会議開催への影響もあるが、感染者の発生状況に注意し、委員長・部会長と十分に相談のうえ検討を進めていく。

委員長：質疑を行います。資料1-1。

(なし)

委員長：資料1-2。

(なし)

委員長：資料1-3。

(なし)

委員長：資料1-4。

(なし)

委員長：資料1-5。

黒田委員：芽室らしさ、キャッチコピーのようなものがあると議論の方向性が分かりやすくなるのではないか。

農林課長：キャッチコピー的な議論はあったが、初めから事務局側で示すのは適切ではない。議論の過程を踏まえながら検討し、第三者が見た時にわかるよう進めたい。

黒田委員：持続可能な農業をポイントとして具体性を持たせるなど、何か目指す部分はあるか。

農林課長：現時点で答弁できる段階ではない。持続可能な農業の視点は必要と考えている。

黒田委員：農業関係者以外にも理解できる仕掛けを工夫する考えはあるか。

農林課長：農業関係者以外の方にも部会に入ってもらっている。生産者を支えていくという町民の理解を得る必要があると考えている。

鈴木委員：30ページ。観光など他分野の連携があるがどういう意図か。

農林課長：町独自事業の地産地消バスツアーを観光物産協会に委託していくことが背景にあった。コロナの影響で今年度は断念している。

鈴木委員：観光物産協会では昔からやっていた部分。農業が大きな角度から見えてくる。観光分野として農産物の販売・PRなどの基本的な考えもあるのか。

農林課長：部会の中で踏み込んだ議論はされていない。関係団体と意見交換などは行っている。農業応援団という考え方を他分野にも広げていくことを念頭に進める。

鈴木委員：新戦略部会は担い手不足など他部会にも関わる部分。部会間の連携などは。

農林課長：新戦略部会は他の部会にも関わる場所。部会間の連携は図っていく。農業分野だけで完結せず、他の分野との連携も考慮していく。

中村委員：子ども達が応援団になるよう意識の醸成が必要。食育・食農の教材づくりができないか。

委員長：午後0時となったが委員会を続けてよろしいか。

(異議なし)

農林課長：教材は教育研究所で編纂していると思うが、副読本の内容に農業の応援団になるような資料を提供できないか考えていく。

委員長：資料1-6。

(なし)

委員長：全体を通して。

柴田委員：後継者問題について、新規参入者への円滑な農地貸付システムなどはできるのか。

農業委員会事務局長：農地取得は農地法第3条資格者が原則。規模拡大意欲があり、新規就農者に農地が回らない状況は続いている。

柴田委員：計画が8年後とすると、毎年離農もあり、力のある農家とない農家の情勢で変わるのではないか。新規就農者が増えている可能性もある。

農業委員会事務局長：現状は購買意欲があるがどこまで取得できるか。条件不利な土地なども踏まえて検討していく。

柴田委員：町の計画であり、農業者以外の町民が見ても分かりやすいつくりにするべき。

農林課長：生産者以外も入っていただいております、完成に向けては分かりやすい表記としていく。

委員長：以上で調査事項「ア 芽室町農業振興計画について」を終わります。

### 3 その他

#### (1) 次回委員会の開催日程について

6月29日 月曜 午前9時30分から。

#### (2) その他

委員、議長、事務局ともになし。

以上をもって、総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	1名	議員	0名	合計	1名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和2年6月19日

総務経済常任委員会委員長 正村紀美子